



故吉岡たすくさんの温かなまなざし

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

私が教員になった頃、テレビ寺子屋という番組に出演していた吉岡たすくさん（1915年～2000年）の軽妙な語り口に引き込まれました。元校長、児童文化研究者という肩書で、ご自身が実際に教えたり出会ったりした子どもたちとの出来事を、温かな眼差しで見つめながらも鋭い観点で教育の本質を掘り下げていく、そんなお話を聞くのが楽しみでした。

80点のテスト

「ぼく、あかんわ」
と、なげくように言ったのは、カズオくんです。
「カズオくん、何がだめなんだい」
と、私がたずねますと、カズオくんは、
「ぼく、きのう、おこられてん」と言います。
「誰におこられたの」
「お母ちゃんに」
「何かわるいことでもしたの」
「ううん」
「じゃ、なぜおこられたの」
「きのう、算数のテストを持って帰って、お母ちゃんに見せたら、おこられてん」
「何をおこられたの」
「点がわるかったから」
「カズオくんは何点だったかな」
「80点」
カズオくんは全く元気がありません。
「80点もとったのに、どう言っておこられたのかな」
「こんな点をとって来て、しっかりしなさいって…
ぼくのお母ちゃんは小さいとき、算数がよかったんや
て。100点か90点ばかりで、80点みたいな点
はとったことがないんやて。勉強せんから、こんな点
をとるんやとて、おこられてん」

「そうだったの」
私がカズオくんをどう励ましたらよいだろうかと考えていますと、横から、
「わたしも80点やった」
と、あかるい声がしました。トモコちゃんでした。
笑っています。
「トモコちゃんも80点だったの」
「うん、そうや、80点やった」
「トモコちゃんもおこられたんか」
と、カズオくんがたずねました。
「ううん、おこられへんかった」
と、笑いながら、トモコちゃんが言いました。
「お母さんに何か言われた？」
と、私がききますと、トモコちゃんは、
「うちのお母ちゃん、テストを見て、なかなかようやる
なあ。もうちょっとがんばったら、90点になるんや
な。惜しかったな。がんばりや。90点とったら、たい
したもんやでって言うねん。先生、私ね、こんど90
点とって、お母ちゃんをびっくりさせたげんねん。私、
がんばるねん」
と話すのです。
私は、同じ80点でも、お母さんによってちがう見方
があるんだなあと思いました。

「ちいさいサムライたち① PHP研究所」より

どこにでもありそうな出来事で、サザエさんやちびまる子ちゃんにも出てきそうです。吉岡さんは、文章の中では、何も考えを述べていませんが、子どもたちの教育の神髄についています。当然のことですが、一人として同じ子どもは
いません。外見だけではなく、身に付けている資質や能力もそうです。

私には子どもが二人いますが、同じ環境で同じように育てたはずが、長女は勉強が大嫌いで体を動かすことが大好き、コミュニケーション力と要領でこれまでの人生を生き抜いてきたタイプです。対する長男は体を動かすことが大嫌いで理屈が大好きなインドア派、こだわりだと梃でも動きません。夫婦でお互いにだれに似たのかと…。

理屈では理解しているものの、ついうっかりすると兄弟姉妹や自分と比べてできないことを指摘してしまいます。これは「百善あって一利なし」です。トモコちゃんの話聞いて、カズオくんはどう思ったのでしょうか。ご家庭でも「80点のテスト」を話のタネにして、子どもたちと会話をし
ていただけたらと思います。

